

## 1 概要

### ● 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」を設置し、専用ホームページや情報誌による情報の収集・発信や刈払機の取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出しなど、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施します。

### ● 森林環境教育の推進

新たな「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育を推進します。

## 2 実施状況

【平成26年度の実績】

4,611千円

### ○森林ボランティア活動の推進

- ・ 森林ボランティア支援センターの設置
- ・ 専用ホームページ「モリノワ」の運用開始：<http://www.morinowa.pref.gunma.jp/>
- ・ 森林整備作業器具の貸出し：47回
- ・ 安全講習会の開催：開催回数：11回  
参加人数：226名
- ・ 情報誌の発行：1回

### ○森林環境教育の推進

- ・ 指導者養成カリキュラムの作成
- ・ 指導経験者を対象に緑のインタープリター養成講座を開催（公益財団法人キープ協会に委託）
- ・ 講座回数：4回
- ・ 緑のインタープリター認定者：29名

貸出し器具



安全講習会



指導者養成講座



周知リーフレット

### 3 成果

#### ○森林ボランティア活動の推進

- ・ 森林ボランティア支援センターを設立し、専用ホームページや情報誌による情報発信や森林ボランティア活動団体を対象にした刈払機の取扱いなどの安全講習、森林整備作業器具の貸出しなどを実施し、森林ボランティア団体の活動を支援しました。

#### ○森林環境教育の推進

- ・ 指導者養成講座の実施により、新たに29名の「緑のインタープリター」を養成しました。

### 4 課題・方向性

#### ○森林ボランティア活動の推進

- ・ 県民自らが森林や林業に関心を持ち森林保全や森林整備の必要性について理解を深めることが重要なことから、森林ボランティアに取り組む団体等の支援をさらに推進する必要があります。

#### ○森林環境教育の推進

- ・ 森林や自然に対する県民の関心と理解を深めるためには知識・ノウハウのある指導者が不可欠なことから引き続き、指導者の計画的な養成を図っていく必要があります。

### 5 実施状況の評価（評価者：県）

#### ○森林ボランティア活動の推進

- ・ 森林ボランティア支援センターを半年前倒して設立することにより、森林整備作業器具の早期貸出し等が実施でき、計画を上回る成果が得られました。

#### ○森林環境教育の推進

- ・ 指導者養成カリキュラムの作成から経験者向け養成講座の開催まで、概ね計画どおりの成果が得られました。

### 6 評価検証委員会の意見

- ・ これまで個別に取り組まれてきた森林ボランティア活動の拠点としての支援センターが設置されたことは大きな前進である。森林整備作業器具の貸し出しも順調に行われ、県民参加が進んだことは評価できる。

- ・ 森林環境教育を推進するために、緑のインタープリターのさらなる育成と活躍の場の設定をシステマ的に行うことが必要である。

## 1 概要

- 荒廃した里山・平地林の整備

市町村と地域住民やNPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。

- 貴重な自然環境の保護・保全

市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種(約650種)が生息している地域の保護・保全活動を支援します。

- 森林環境教育・普及啓発

児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。  
森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。

- 森林の公有林化

水源地域の森林や平地林の購入(公有林化)あるいは平地林の造成しようとする市町村を支援します。

- 独自提案事業

ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

## 2 採択状況

・平成26年度は第1次募集及び第2次募集を実施し、29市町村による117事業を採択しました。

	第1次募集			第2次募集			合計			事業計画量
	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	15	46	51,020	17	38	101,714	22	84	152,734	森林58ha、竹林39ha 管理 8ha
貴重な自然環境の保護・保全	2	3	581	4	4	1,470	6	7	2,051	植物 3種 昆虫 2種
森林環境教育・普及啓発	8	14	5,347	3	4	845	11	18	6,192	15事業
森林の公有林化	1	1	10,000	2	2	4,777	3	3	14,777	水源林14ha、平地林 0.4ha
独自提案事業	3	3	4,433	2	2	1,360	4	5	5,793	森林 4ha、竹林 3ha
合計	19	67	71,381	25	50	110,166	29	117	181,547	

## 3 実施状況

【平成26年度の実績】

74,706千円

	完了			事業量	参考:繰越			(廃止)		
	市町村数	事業数	補助金額(千円)		市町村数	事業数	補助金額(千円)	市町村数	事業数	補助金額(千円)
荒廃した里山・平地林の整備	20	46	49,897	森林19ha、竹林 8ha 管理 5ha	6	17	89,675	4	21	2,107
貴重な自然環境の保護・保全	6	7	2,022	植物 3種 昆虫 2種						
森林環境教育・普及啓発	11	15	4,123	15事業				2	3	900
森林の公有林化	3	3	14,321	水源林 11ha 平地林 0.4ha						
独自提案事業	4	5	4,344	森林 5ha、竹林 3ha						
合計	28	76	74,706		6	17	89,675	6	24	3,007

・平成26年度については、採択した事業のうち19市町村による76の事業を実施しました。  
・事業の実施状況については、VI資料集「市町村提案型事業実施報告」を参照。



・平成26年度 市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（神流町）



荒廃した里山・平地林の整備（渋川市）



荒廃した里山・平地林の整備（片品村）



森林環境教育・普及啓発（藤岡市）



森林環境教育・普及啓発（高崎市）



独自提案事業（渋川市）

## 4 成果

- ・ 20市町村の46事業により約27haの荒廃した里山・平地林が整備されたことにより、野生鳥獣被害の低減、生活道路や通学路の見通しの確保、景観の保全がなされ、地域住民の安心・安全な生活環境の改善が図られました。
- ・ 地域住民にとって身近な里山を自ら又は地元市町村と協働し整備することにより、「森林をみんなで守る」意識の醸成が図られました。
- ・ 森林環境教育・普及啓発では、延べ2,000人を超える県民(児童生徒)が参加し、森林の大切さや林業の役割を学び県民の森林環境に対する意識の向上が図られました。

## 5 課題・方向性

- ・ 市町村の林業担当部局を通じて、ぐんま緑の県民基金事業の広報活動を実施しているものの、平成26年度は29の市町村の取り組みに留まった。このため、今後とも引き続き広報活動を行うとともに、市町村の教育委員会等幅広く連携し、事業の普及啓発に努めます。
- ・ 地域が荒廃した里山・平地林を継続的に維持管理していくためには、地域住民の維持管理の負担感を軽減し、継続的な管理意欲を高めることが重要であることから、地元市町村と協力しながら地域の取組をフォローする必要があります。
- ・ 事業採択されたものの年度内に事業が完了せず繰越事業が生じたため、市町村による早期の事業着手が図られるよう事務手続等のスケジュールについて配慮する必要があります。

## 6 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 荒廃した里山・平地林の整備については、採択された計画の一部について、整備箇所の地元調整が難航し、年度内完了が困難（繰越17事業）となり、十分な効果に繋がらない事業が生じました。
- ・ 荒廃した里山・平地林の整備以外の30事業については、採択された計画内容に基づき、適正に実施されており、期待された成果が得られました。

## 7 評価検証委員会の意見

- ・ 初年度は、周知期間の関係から市町村へ事業内容が十分に浸透しなかったことから出足は鈍かったが、住民に身近な里山・平地林の整備が進められ、安心・安全な生活環境の整備に寄与できた点は評価できる一方、地元との調整が難航した例もあり、今後は提案する際の地域の合意形成の状況把握を行うことが必要だと思われる。
- ・ なお、県民ニーズと制度設計時における想定にズレが生じている場合もあり、十分な検討が必要とされる。



## 1 概要

### ● 普及啓発

ぐんま緑の県民税への理解を深めるため、税のしくみ、森林の役割や大切さの普及啓発活動を実施します。

### ● 評価検証

事業の内容検討・実績評価・効果検証などを行う「ぐんま緑の県民基金評価検証委員会」を運営します。  
事業の客観的な効果検証を行うために必要な県の林業試験場による調査・分析を実施します。

### ● ぐんま緑の県民税導入経費

市町村において、納税通知書にチラシを同封することに伴い増加する郵便料金・封入費用の実費負担相当額及び賦課徴収に係る事務手続の増加に対する経費相当額を負担します。

## 2 実施状況

【平成26年度の実績】

37,308千円

### ○普及啓発

【平成26年度の実績】

2,659千円

- ・ 納税通知書に同封するチラシの作成
- ・ ポスター・リーフレットの作成
- ・ ぐんまちゃんのイラストを活用したロゴの作成
- ・ 広報媒体を利用した普及啓発
- ・ 出前講座の実施
- ・ バスツアー（「歩いて知ろう！ぐんまの森林ツアー」）の実施



ロゴマーク

リーフレットの作成



出前講座・市町村説明会



バスツアー

○評価検証（評価検証委員会の運営）

【平成26年度の実績】

408千円

- ・ 評価検証委員の選定(10名)・・・VI資料集－評価検証(評価検証委員会)を参照
- ・ 評価検証委員会の開催(3回)
  - 1回目:平成26年 6月23日 ……県庁29階 第一特別室 10:00～12:00
  - 2回目:平成26年11月10日 ……県庁 7階 審議会室 13:30～15:30
  - 3回目:平成27年 3月17日 ……県庁29階 第一特別室 9:30～12:00



○評価検証（調査分析）

【平成26年度の実績】

663千円

- ・ 水源地域等の森林整備事業地を対象に間伐の実施による事業効果の判定
- ・ 平成26年度は、調査対象地における間伐前の植生調査等を実施(県内20カ所を調査)



調査地の内訳

調査項目	通常区	特定調査区
毎木調査		○
照度	○	○
植被率	○	○
植生乾燥重		○
土壌断面		○
植生調査	○	○



林内



対照地

相対照度の測定の様子



植生調査



植被率調査

○ぐんま緑の県民税導入経費

【平成26年度の実績】

33,578千円

- ・ 県内35市町村にぐんま緑の県民税の導入に係る経費を補助
- ・ 納税通知書にぐんま緑の県民税に係るチラシを同封することに伴い増加する郵便料金・封入費用の実費相当額
- ・ ぐんま緑の県民税賦課徴収に係る事務手続の増加に対する経費相当額

### 3 成果

#### ○普及啓発

・ ぐんま緑の県民基金を広く普及啓発するため、ポスターやリーフレットの作成、各種メディア媒体を活用した広報活動を実施し、ぐんま緑の県民税の趣旨や事業内容などの理解の促進を図りました。

#### ○評価検証（評価検証委員会の運営）

・ 平成26年度は3回の評価検証委員会を開催し、市町村提案型事業における117事業の採択や森林・竹林の全伐支援などの新たな事業メニューの承認を行い、議事の内容や審議結果を公表しました。

#### ○評価検証（調査分析）

・ 20カ所の水源地域等の森林整備事業地を対象とし、間伐を実施する前の森林の状況を調査し、調査分析に必要な基礎情報の収集を実施しました。

#### ○ぐんま緑の県民税導入経費

・ 県内35市町村全てに対して、ぐんま緑の県民税の導入に係る必要経費を支援し、新税導入に伴う事務手続きなどが効率的に実施されました。

### 4 課題・方向性

#### ○普及啓発

・ 県民が事業の成果やその効果について理解を深めるために、引き続き、広報誌や各種メディア媒体を活用し効果的な広報活動に努めます。

#### ○評価検証（評価検証委員会の運営）

・ 事業の検証や評価、助言を通して、明らかになった課題の解決に努めます。

#### ○評価検証（調査分析）

・ 間伐実施後の調査地のデータを確実に収集し、適切な調査分析を実施します。

### 5 実施状況の評価（評価者：県）

・ 県民に対する普及啓発については、今後も重点的に実施する必要があるが、平成26年度の制度運営に関する取組内容は適正に実施されており、概ね期待された成果が得られました。

### 6 評価検証委員会の意見

・ 初年度は、普及啓発に力が注がれ、その結果、市町村・県民への浸透は一定程度進んできたものと捉えられる。ぐんま広報やホームページに、本事業の内容や成果について、わかりやすく掲載して、さらなる県民の理解を得ることも必要だと考えられる。



## V ぐんま緑の県民基金評価検証委員名簿

(五十音順 敬称略)

氏名	職業・役職等	参考	備考
内山 はるの	森林所有者	森林・林業関係者	
金井田 好勇	館林市副市長	平地林代表市町村	
金子 裕昭	連合群馬事務局長	納税者(労働団体)	
鬼頭 春二	みなかみ町副町長	山地代表市町村 (H27.2.19～)	
清野 紀美子	群馬県生活協同組合連合会 女性協議会会長	納税者(消費者団体) (~H26.7.22)	
高橋 淳子	桐生大学短期大学部 生活科学科教授	学識経験者 (環境教育)	
田村 辰夫	森林所有者	森林・林業関係者	
西岡 喬	太田商工会議所副会頭	納税者(経済団体)	
西野 寿章	高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科教授	学識経験者 (森林環境保全)	委員長
松本 勉枝	群馬県生活協同組合連合会 女性協議会会長	納税者(消費者団体) (H26.7.22～)	
萩原 重夫	片品村副村長	山地代表市町村 (~H27.2.19)	
宮地 由高	群馬NPO協議会相談役	学識経験者 (NPO・ボランティア活動)	委員長代理

(任期 : 平成25年7月30日 ~ 平成27年3月31日)



## ぐんま緑の県民基金事業 平成26年度 実施報告書

○ この実施報告書に関するお問い合わせ先

群馬県環境森林部 林政課 林政推進係  
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1  
TEL:027-226-3278 Fax:027-223-0154  
E-mail :rinseika@pref.gunma.lg.jp

○ ぐんま緑の県民税ホームページ

<http://www.pref.gunma.jp.04/e3000101.html>